

# マーブリングと墨流しを用いた作品制作の一考察

川里 智子

## One observation of creating artwork using marbling and “suminagashi” techniques

Tomoko Kawazato

### Abstract

It was found that using marbling and “suminagashi (floating ink)” techniques to create artwork stirred one’s imagination from the beautiful colors and patterns and expanded multiple facets of creativity, aiding the artist in painting. It was observed that the marbling colors stimulated one to imagine various things, in particular animals. It was also revealed that with suminagashi, it was easy to imagine various things from shapes, and that on many occasions the objects of such imagination were animals.

**Keywords:** marbling, suminagashi Imagination, colors, patterns

### Abstract

マーブリングと墨流しを作品制作に用いることにより、美しい色彩や模様から想像力を促し、様々な創造を広げ、絵を描く手助けとなることが分かった。マーブリングの色彩から様々な物事を想像しやすくなること、動物などを想像する割合が多いことが分かった。次に墨流しでは形から物事を想像しやすくなること、想像する物事は動物など割合が多いことが明らかとなった。

**Keywords:** マーブリング・墨流し・想像・色彩・模様

### 1.はじめに

筆者は、近畿大学九州短期大学の通信保育科教員として勤務する傍ら、福岡県立高校と大学の教育学部の非常勤講師として美術や図画工作进行を指導している。生徒や学生 128 名に「美

術は好きですか。描くことや作ることは好きですか」とアンケートを取った結果、「美術は好きである」と答えたのは 107 名で、「美術は嫌いである」と答えたのは 21 名であった。

「好きになった理由を教えてください」という質問には、「上手く描けたときの達成感や形に残るのが好き」「言葉にできないことを表現できるし、正解がないから誰の目も気にならない」「小さい頃から絵を描いたり、工作したり、ビーズアクセサリーを作ることが好きだったから」など回答があった。様々な意見はあるが、絵に描くことや造形することで自分自身の思いを表現できることに魅力を感じているようだ。「嫌いになった理由を教えてください」の質問では「絵心があまりなくて、絵が下手で自分が思い描いたように描けないから」「作業をするのが好きじゃない」「描くことや作るのが苦手だし、下手だから」という回答があった。描くことや造形することに苦手意識をもつ人も中にはいる。「絵心があまりなくて、絵が下手で自分が描いたように描けないから」の意見から考えてみると、他者と作品について比較されたのではなく、描き作ったものに対して自分自身で評価をしているようだ。「作業するのが好きではない」は、図工・美術の授業を単なる作業ととられることなく、有意義な時間であるという意識がもてるような授業作りを心掛けたい。「描くことや作るのが苦手だし、下手だから」という意見に「苦手」という言葉がでてくる。なぜ苦手になったのかきっかけについては分からないが、その苦手意識を少しでも変えることができたかと考えた。

真っ白の画用紙に「さあ、自由に描いて下さい」と言われても中々描けないこともある。そこで絵を描くきっかけとして、有効な手立てはないかと考えた。本論では、絵画技法であるマーブリングと墨流しを作品制作に用いることにより、想像力を促し、美しい色彩や形により空想を広げ、絵を描く手助けになると考え、マーブリングや墨流しを用いた授業展開を考え授業を行った。完成した作品や感想文などから、マーブリングや墨流しの美しい色彩や形が手助けとなり楽しく絵を描くことができたのか考察する。

## 2. 考察方法

この研究は令和 3 年 4 月から 8 月にかけて福岡県立高校の美術の授業や、大学の教育学部でのオンライン授業で取り組んだ事をまとめている。マーブリングを用いた作品制作は県立高校で行い、墨流しを用いた作品作りは大学の教育学部で取り組んだ。共に、完成作品とアンケート結果や感想の記述から、マーブリングと墨流しを用いたことにより、想像力が豊かになったのか、絵を描くきっかけとなったのか考察していく。

新型コロナウイルス予防の観点から、マーブリングの授業も工夫が必要となった。実施前後には手洗いやアルコール消毒を徹底し、多数のバットを準備し、生徒一人一人にいきわたるようにした。マーブリングの実技では生徒一人だけで行うことにより他者との接触回避を試みた。

### 3. マーブリング・墨流しとは

マーブリングとは、溶き油でといった油絵の具や、水彩絵の具、アクリル絵の具、専用絵の具（彩液）などを水面に垂らすと絵の具が水面で広がる。そこを扇などであおぎ、また竹串等で静かにかき回して水流をつくり、水の自然な動きによる模様を紙の吸水性を利用して、模様を映し取ると、大理石（マーブル）のような美しい模様ができる。大理石模様に似ていることから、マーブリングと呼ばれるようになったようだ。マーブリング模様には様々な模様がある。貴田は「マーブル染」の中で小石模様や櫛目模様などの複雑で美しいマーブリング模様を紹介している。<sup>1</sup> R.F. シムスは大理石（マーブル）の事を「変形した石灰岩である。しかし石材業界では、ほかのさまざまな岩石も“大理石（マーブル）”と呼んでいる。」<sup>2</sup> と言っている。それらの岩石は切り出された面の美しい模様と切りやすく磨きやすい点で、彫刻や建築材として広く使われてきた。白くほんのりと模様がある結晶質石灰岩も大理石なのだが、貴田の言うマーブリング模様とは違うようだ。その点ではイタリア、トスカーナ地方のカララ採石場から切り出される石材模様は、マーブリング模様に近いように感じる。その他にもギリシアのエウボイア島のチポリノ大理石は、筆者がこの後実践する墨流し風のマーブリング模様と似ている。貴田の言う「ヨーロッパに伝わった当初は、大理石のような模様を持つ紙であったに違いない。」<sup>1</sup> について調査しているが、まだ確かなことは分かっていない。

マーブリングが生まれた国はイタリアやドイツ、トルコやインド、中国そして日本と様々な意見があり現在では、中国がマーブリング紙発祥の地とする説が有力である。<sup>1</sup> 日本には古くから墨流しという技法があり、今のところ実物として残っているのは、『三十六人家集』の墨流し（1112年頃、京都本願寺）に確認することができる。<sup>1</sup> 『三十六人家集』とは歌人36人の家集（和歌をまとめた家集のこと）である。美しい装飾を施された紙に、みごとな筆跡で歌が書かれている。その中で「紀貫之 上」の中に墨流しを施したものが確認できる。墨流しとは墨と油を使い、水の流れを利用して模様をつくりだし、紙に映し取る技法である。<sup>3</sup> 紙の博物館初代館長の成田が書いた Suminagashi（墨流し）という論文の中で「平安時代の墨流しの模様には二つのモチーフしかなかった。一つは風に吹かれた白い布が流れるように旗めく模様、もう一つは野山に立ち上る煙がゆるやかに流れる模様である。」<sup>1</sup> と成田は述べている。平安時代の墨流しが意味することは2つしかない。後の実践ではマーブリングや墨流しから何を想像したのか調査をしている。想像した物事は多数あり、墨流しから想像したものの中には「工場の煙」という学生もいた。平安時代と現代に少しだけ共通点があると感じられた。

### 4. 実践

#### 4-1 マーブリング紙を用いた作品制作について

高校の美術の授業として「手作りうちわ」を制作している。実践したのは福岡県立高校で美術を選択している生徒合計188名である。この実践は令和3年4月～6月の間、各高等学

校美術室と各図書館で行った。自分自身で染めたマーブリング紙から、各自想像した絵柄を水墨で描いた。墨が完全に乾いたら、和紙をうちわの骨に糊で貼り付けた。糊が完全に乾いてからはさみで余分なところを切り、マスキングテープで周りを貼り付けたらうちわの完成である。今回の研究はその中の一部で、マーブリング紙から何を想像したのか、そして何を描いたのかに着目する。

マーブリングを行うために必要な材料は新聞紙、バット、彩液、画用紙、手漉き和紙を使用している。手漉き和紙を使用する理由は色彩が美しく映し取れるからだ。マーブリング紙作成は次の手順で行った。①バットに水をはり、彩液を含んだ筆で水面に彩液をつけ、模様を浮かべる。②静かに水面を筆の裏でかき回し、動きを作り、様々な紋様を演出する。③紙を静かに水面に浮かべて紋様を紙に写し取る。(図1) ④新聞紙の上にマーブリング紙を置いてティッシュペーパーや新聞紙などで優しく押して余分な水を取る。⑤適当なところで乾かす。



図1 マーブリングを行っている様子

図1はマーブリングを行っている様子である。マーブリングを行った生徒の感想から「自分の思い通りの模様にならないことがまたおもしろいところだなと思いました。とてもきれいにできたし、いい色になったので、とても良かったです」とあった。マーブリングは、誰にでも美しい色彩や模様を映し取ることができる。偶然できる形だからこそ、瞬間の芸術だと考える。

#### 4-2 墨流しを用いた作品作りについて

大学の教育学部での実践は、令和3年7月29日と8月5日にオンライン授業として行なった。参加学生数は15名である。7月29日に課題を学生に配信し、8月5日に墨流しの作品鑑賞と制作した感想発表をオンライン授業として行なった。アンケート用紙、完成作品、インタビューなどから検証していく。

墨流し課題制作のための材料は、自宅での作業が多くなるため身近な材料で実践できるようにした。例えば、バットやボウルなどは、水を貯めることができるものであればなんでもよいとした。墨汁や洗剤を入れる容器としてペットボトルのキャップを使用するといいいとアドバイスをした。身近な素材を使用することで、学生が園実習の際に実践しやすいだろうと考えた。図2 墨流しの制作手順は次の通りだ。①汚れないように新聞紙を敷く。バツ

トに水をはる。②綿棒（筆）に墨をつける。綿棒の先を水面につけ墨が広がるのを待つ。③洗剤の着いた綿棒を、墨が広がっている中心につける。②と③を繰り返す。（図3）④乾いた綿棒（筆）で水面を優しくかき回す。⑤画用紙を静かに水面に置く。引き上げて、余分な水分や汚れをティッシュペーパーや新聞紙でふき取る。⑥完成。



図2

- ①左下 画用紙・和紙（吸水性のある紙であれば、なんでも可）
- ②中央下 綿棒（筆でも可）
- ③中央下 ペットボトルのキャップ（墨と洗剤を入れるため）
- ④中央左 墨汁 中央右 食器洗い用洗剤（石けんでも可）
- ⑤中央上 バット（ボウルでも可）



図3 墨と洗剤（油）を使って墨流しを行っている様子

墨流しを行った学生からは「思っていたよりも手軽に簡単に楽しめる遊びだなと感じました。洗剤が墨をはじく様子や、画用紙に柄がついた瞬間などが面白くて楽しく、私たちでもこんなに楽しめるのだから、子どもたちと一緒にやったらとても喜ぶだろうなと思いました」とあった。学生の発表から「墨が洗剤によって広がる様に興味を持った」などの意見や「洗剤を入れすぎて広がりすぎて、墨の色が薄くなった」という意見も授業中にあった。最初から自分の思ったような模様ができなくても、あきらめずに何度もチャレンジする姿もインタビューの中から見られた。将来、子どもたちと関わっていく学生たちには自らが墨流しを体験し、その時感じた事を大切に持って子どもたちに携わってほしいと思っている。

## 5. マーブリングと墨流しから何を想像したのか

### 5-1 マーブリング紙から何を想像したのか

手漉き和紙にマーブリング染を行い、その色彩や模様から何を想像したのか、学習プリントに記述した文章をまとめ一覧表にした。一名が複数の回答をしているため、生徒数と回答数は一致しない。一覧表は、分かりやすいようにジャンル分けをしている。生徒188名から回答を得た。表1

表1 マーブリングから想像した物事一覧表

動物（鳥、魚、イルカ、クラゲ、フラミンゴ、蝶々、蜂、へび、トカゲ、象、カニ、金魚、恐竜など）	98	32%
天体・気象（夕焼け、宇宙、太陽、彩雲、空、月、オーロラ、雷など）	56	18%
地形・海（火山、滝、海、川など）	53	17%
植物（花、大木、バジル、葉っぱ、ひまわり、アジサイなど）	39	12%
食べ物（トロピカルジュース、チョコバナナ、アイスクリーム、ミックスジュース、さくらんぼなど）	20	6%
想像上の世界や物（アニメーションのキャラクター、夢の中、天国、アリスの国、異次元、魔法のランプなど）	12	4%
人物（フィギュアスケートをしている人、役者、人の横顔など）	9	3%
行事・出来事（ハロウィン、火事、花火など）	9	3%
人工物（城、煙突、ロケット、新幹線、実験器具、信号など）	7	2%
デジタル機器（スマートフォン、ゲームなど）	4	1%
遊び（シャボン玉）	3	1%
形容詞（かわいい、爽やか）	3	1%
合計	313	100%

1番多い回答は「動物」で全体の32%であった。動物の中で多いのは、鳥や魚であった。その他にはイルカやフラミンゴ、蝶々、蜂など多岐にわたる。鳥や魚はマーブリング紙からただちに想像できた場合もあるが、多くは川や海などを想像し、その後に鳥や魚を想像することが多い。2.3番目に多く想像したもので「天体・気象」は全体の18%で、夕焼け、宇宙、太陽などを想像している。「地形・海」は全体の17%で、火山、滝、海、川などを想像している。マーブリング紙の色彩や模様が川や海など見えてくることはよくある。ただ、そのまま川の流を描いても何を表しているのか分かりにくいので、色彩や模様が川や海であることを表現するために魚やイルカなどを共に想像し、画面の中に描くことがある。図4の生徒作品は海を想像し、その後海の中の生物を描いている。マンボウやクマノミなど様々な魚が描かれていて、にぎやかな海の中の様子が描かれている。連想ゲームのように次々と想像力を働かせ、様々な想像が生まれている。

図5の生徒作品は、マーブリング紙のグルグルとした模様とオレンジと水色の色彩からオーロラを想像したようだ。色彩や形自体がオーロラに見えるので、その部分にはなにも描き加えないで、周りに森や樹木を描くことでオーロラを表現している。

マーブリング制作の対象者が高校生ということもあり、アニメーションのキャラクターやスマートフォンなどの想像上の世界や、デジタル機器を想像した数も少なくない。デジタル機器が高校生の生活に密接に関わっているのだと考察する。

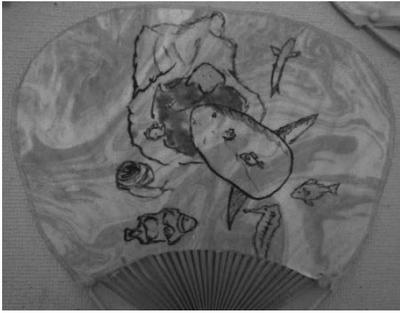


図4 海の中を想像して



図5 オーロラを想像して

### 5-2 色彩・形・両方（色彩と形の両方）の何から想像したのか

想像するきっかけはなんだったのか、完成作品と学習プリントと聞き取りにより調査を行った。マーブリング紙の色彩・形・その両方（色彩と形）の何から想像したのか3つに分けて分類した。表2

表2 マーブリングの何から想像したのか

色彩	101名	59%
形（模様）	43名	26%
両方（色彩と形）	25名	15%
合計	169名	100%

調査の結果、マーブリングの色彩から物事を想像した生徒が101名と全体の59%で多い事が分かった。形から想像した生徒は43名（26%）となった。色彩も形も両方から想像した生徒は25名（15%）であった。

図6の生徒作品は色彩から想像した作品である。薄い黄緑色のマーブリング紙から、マスカットを想像したようだ。生徒は図書室で果実図鑑を見ながら、マスカットの形をとっていき、水墨で描きうちわに仕上げた。薄い黄緑色からマスカットを想像することは理解できる。その他色彩から発想したものには蜂、ブロッコリーや夕焼けなどを想像した作品もあり、色彩と選んだ図柄が直結しているのが特徴であると考察した。

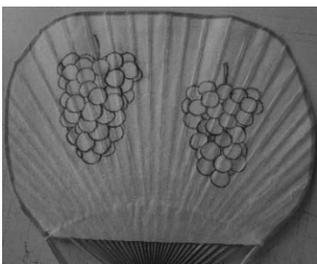


図6 色彩から想像して

次に形から発想した作品について考えたい。図7は絵を描く前のマーブリング紙である。水色と薄赤色の流れるような模様が美しい。中央の薄赤色の形に注目してもらいたい。中央の丸みと流れるような曲線がクラゲの形のようにも見える。この生徒はマーブリングで偶然できた模様(形)から発想しクラゲを想像した。学校図書館で図鑑の写真を見ながら下描きをして、水墨でうちわに仕上げた。(図8) ゆらゆらと海の中を漂うような曲線とクラゲの絵が良く合っている。制作した時期が初夏だった為、海や川など涼しさを感じることができる場所やものを想像する生徒は多かった。想像するきっかけは形であるが、自らの経験や季節なども取り込み創造を広げることで表現が豊かな作品が完成した。生徒の感想から「マーブリング紙から発想することが難しかったです、見方を変えると様々な発想がうかんできて、とてもおもしろかったです」とあり、最初はマーブリング紙から何かを発想することを難しく感じたようだが、想像することをあきらめずに、紙を様々な方向から見ることで、また違った見方ができたようだ。様々な想像が頭に浮かんでくる様に面白さを感じたのではないかと考察する。

調査では43名の生徒(26%)が形をきっかけとして想像している。26%という数字は決して多い数字ではないのだが、制作に取り掛かるスピードは授業を行う上で速いように感じた。ある生徒はマーブリングの形からアイススケートをしている女性を想像し描いた。学校図書室での資料選びでは、どんな資料が必要なのか早急に分かったようで、アイススケートの本を探し下描きしていた。絵を描くきっかけとしてとても有効な手立てだと感じた。

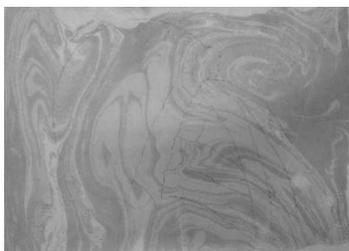


図7 マーブリング紙

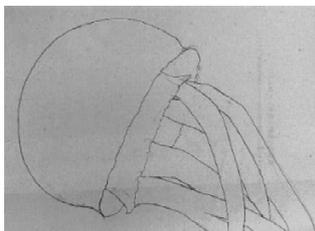


図8 図書館で図鑑を見ながら描いた下描き

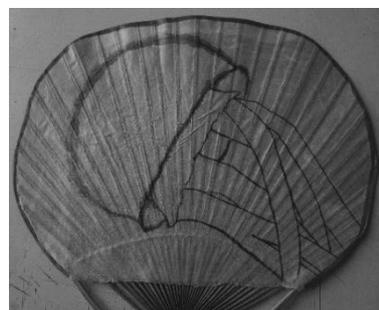


図9 クラゲを想像して(完成作品)

最後に、色彩と形の両方から想像した作品について考えたい。図10は絵を描く前のマーブリング紙である。この段階で生徒は「鳥が翼を広げている状態に見えた」と答えている。オレンジ色と黄色と青色の模様(形)の部分が鳥のように見え、色彩も鮮やかでこのような色彩を持った鳥が実在するかのようだ。図11は図書館の図鑑を使い色々な角度の写真の鳥をスケッチして完成品のイメージを高めている。図12はうちわとなった完成作品である。頭と翼、足の部分だけ描きこんで、マーブリングの模様をそのまま生かしている。生徒の感想から「自然が生みだした世界からイメージを広げ、形あるものに近づくことができたので良かったと思う」とあった。生徒の言っている自然が生みだした世界とは、マーブリングの

偶然性を言っている。偶然できたものから形あるものができることへの不思議さを感じ、想像力を広げ、完成したことへの達成感を感想文からうかがい知ることができた。



図 10 マーブルリング紙

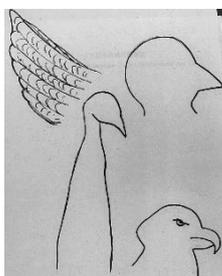


図 11 図書館で図鑑を見ながら描いた下描き



図 12 鳥を想像して

### 5-3 墨流しから何を想像したのか

墨流しを行った紙から何を想像したのか、授業内インタビューやアンケート結果から表にまとめた。参加学生数は15名で、1名が複数想像しているので合計数が学生数より多い。

表 3

表 3 墨流しから想像した物事一覧表

動物（鳥、カニ、エビ、クジラ、イカ、クラゲ、ヘビ、魚、猿など）	26	59%
天体（太陽、雲、空など）	6	14%
地形・海（山、水面、波など）	5	12%
植物（木、チューリップ、ワカメ）	4	9%
人工物（工場の煙）	1	2%
人物（人間）	1	2%
その他（鳥の巣）	1	2%
合計	44	100%

墨流しを行った紙から想像したもので多かったのは動物だった。鳥やカニ、エビ、クジラなどを想像している。鳥は8名の学生が想像している。マーブルリングの時も鳥を想像した生徒が多数いた。有彩色のマーブルリングや無彩色の墨流しでも、鳥を想像する生徒と学生が多い事が明らかとなった。マーブルリングも墨流しも意図的に模様を作り出すことができないため「鳥の形にしよう」と思ってもできないはずだが、結果として無意識に鳥を想像している数が多い。

図 13 は学生の完成作品である。墨流しを行った紙から鳥を想像したようだ。墨流しの模様（形）から鳥のフォルムを想像することができる。中央部分の鳥を想像した後に、画面下の鳥の巣を想像している。偶然できた模様ではあるが鳥の巣に見え、その右隣の模様が樹木

のようにも見える。学生の感想文からは「普段は上手くかけない動物でも、少しその動物に見える線があるだけで描きやすくなって上手くかけたように感じました」とあり、墨流しの色彩や模様が絵を描くきっかけとなったことが分かる。「描きやすくなった」とあり、描くことへの抵抗が薄くなっているように感じる。



図 13 鳥と鳥の巣を想像して

#### 5-4 墨流しの色彩・形・両方（色彩と形の両方）から想像したのか

想像するきっかけは何だったのか、授業後のアンケート回答の色彩、形、両方の3つに分けて分類した。回答者は13名である。

表 4 墨流しの何から想像したのか

色彩	1名	8%
形（模様）	10名	77%
両方（色彩と形）	2名	15%
合計	13名	100%

アンケートの結果、形（模様）から想像した学生が10名と多数いた。次に多いのは両方（色彩と形）が2名、最後に色彩が1名であった。マーブルリングの鮮やかな有彩色の模様と比べると、墨流しは無彩色の模様である。無彩色であるゆえに、形に注目されやすいと考察する。形から想像して描く場合、墨流しの線が手助けとなり、絵を描きやすくするようだ。

図14は、色彩と形から想像してできた作品である。洗剤と墨を使用しているの墨を弾き、画面が白く明るく感じる。白や黒、灰色といった色彩から想像して白鳥が導き出されたのだと考察する。画面右下のグルグルとした模様（形）と無彩色が合わさって、初めに白鳥を想像し、白鳥の羽、水面へと次々と連想している。



図 14 白鳥と白鳥の羽と水面を想像して  
※両方（色彩と形）から想像してできた完成作品

## 6. まとめ

マーブリングと墨流しによる作品作りを通して、共通点と相違点があることに気付いた。共通点は両方ともに動物などを想像しやすいこと、鳥や魚などを想像しやすいこと、1人の生徒・学生が複数の想像をすることが多いことも分かった。また色彩や模様から様々な物事を想像し、絵を描くことへの抵抗を少なくすることが感想から読み取れた。

相違点は、マーブリングは色彩から想像しやすい事、墨流しは模様（形）から想像しやすいことが明らかとなった。マーブリングは有彩色である事、墨流しの墨による無彩色によるものだと思われる。マーブリングは色彩からつながりのある物事を想像しやすいこと、墨流しの場合は無彩色であるために、模様（形）に注目しやすく、形から想像する割合が高い事が考察される。

## 7. さいごに

幼稚園教育要領の中で、『感性と表現に関する領域(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ～(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。』<sup>4</sup>とある。マーブリングや墨流しから生まれた偶然できる色彩や形にふれることは、子どもたちの美しさにふれる体験となり、色彩や形から子どもの想像力を働かせ、絵を描く手助けになるであろう。子どもは自然と見立て遊びをする。マーブリングや墨流しを体験することで、その美しさにふれ、その形や色彩から想像力を膨らませることができる。子どもたちの豊かな想像力にふれ、ともに美しさや不思議さを共感できればと思っている。

### 参考・引用文献

1. 貴田庄 「マーブル染」(2001) 発行所株式会社芳賀書店 p16～23 p70～71 p78～79
2. R.F.シムス「知」ビジュアル百科1 岩石・鉱物図鑑(2004) 発行所 あすなろ書店 p26～27
3. 近藤陽子・王朝継ぎ紙研究会 「王朝継ぎ紙づくり」和紙で楽しむ料紙制作・箔装飾株式会社マール社 p6 p54～55
4. 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 p233